



## 大槌駅観光交流施設

施工地／岩手県上閉伊郡大槌町本町1番1号  
 竣工年月／平成31年1月31日  
 敷地面積／538.00㎡  
 延床面積／161.14㎡  
 構造／鉄骨造平屋



平成31年3月23日 三陸鉄道一貫運行記念イベント  
 一番列車を迎える大槌町のみなさん

## ひとつにつながる三陸鉄道

2011年3月の東日本大震災により大きく被災した岩手県沿岸部を走る南・北リアス線は、路線各所で駅舎や路盤が流出するなどの甚大な被害を受けました。

路線の運営を行う三陸鉄道株式会社により、震災直後からの震災復興支援列車が無料運転開始されるなど、被災された多くの方々の生活を支え続け、復興の道を進んでまいりました。

この度、南・北リアス両路線を結ぶ釜石駅・宮古駅間整備が完了し、岩手県沿岸163キロの距離を一つに繋ぐ「三陸鉄道リアス線」として2019年3月23日に全線開通いたしました。沿岸部に新駅が続々と整備される中、美しい岩手県沿岸の海を一望できる漁業の盛んな町、大槌町にも「ひょうたん島」をモチーフにした新駅が誕生しました。一つに繋がったリアス線の上を人と人をつなぎ、希望を未来へ運びます。

地図



## ひょうたん島駅舎誕生

新生大槌町駅舎は町のシンボルである大槌湾内を見守る蓬莱島(ほうらいじま)をモチーフとしてデザインされました。

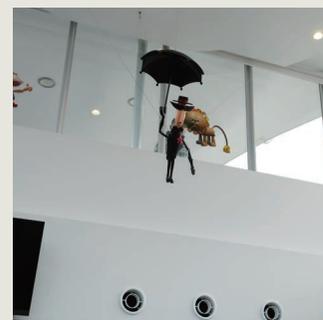
ひょうたん島型の大屋根(ひょうたんルーフ)を浮かべた外観とルーフを支える太い赤い丸柱は、蓬莱島の灯台をイメージし、外壁は砂浜をイメージした色彩とテクスチャーの塗り壁調とし、待合室には特殊な青系の塗装を施すことで、海を感じる魅力的な空間作りを心がけました。各所に設置された、「ひょっこりひょうたん島」のキャラクターたちが駅舎を優しく見守ります。



ひょうたん島駅舎のお迎えはドン・ガバチョ



ハカセが町の発展を見守るルーフテラス



待合室の吹き抜け天井にはダンディ



観光案内受付カウンターの顔はトラヒゲ



サンデー先生が優しく見守る待合室

## 3次元モデル・BIMの活用

シンボルである「ひょうたん」屋根の特徴的な曲線を持つ本駅舎には、BIMを活用したのも設計の特徴になります。コンピューター上に再現された3次元モデルの形状情報に、構造計算から決定された建材等の属性情報を加えることで、構造設計情報のほか、コストや仕上げなど、付随する情報もすべて1つのデータで管理を行い、整合性等の検証を早い段階でスムーズに行うことができました。

※BIM…ビルディング インフォメーション モデリングの略称。



BIMを活用した内装イメージ



コンピューター上に再現された3次元モデル